

可出専稱寺門外二者也。』といひ、第二幅以下も大同小異である。次に珠州郡正院西光寺のものがあり、その終幅には『大谷本願寺親鸞聖人緣起。釋迦如在判。文明三年辛卯六月廿五日。加州加卜郡查(倉)月庄木越光德寺常住物也。願主釋乘雲。』とし、又その後には『右四軸依展轉・長福寺下能州餘郡正院村西光寺釋慶圓奉安置者也。寛永三曆丙寅四月廿八日加筆之。釋宣如在判。』と記され、更に之より新しきものに、金澤専光寺の繪傳があつて、『大谷本願寺親鸞聖人緣起。加州石河郡大野庄吉藤専光寺常住物也。文明三歲辛卯九月四日釋蓮如在判。』の裏書を有する。

シンリュウイン 眞龍院 加賀藩主第十二代前田齊廣の夫人鷹司氏の法號。詳しくは眞龍院瑞圓慈光大禪定尼。

シンリュウインクンミチノキ 眞龍院君道記 一冊。前田齊泰の母眞龍院が、天保九年三月廿三日湯治の爲金澤に下らんことを幕府に請ひ、四月朔日許されて、八月四日出興し、下街道を經、廿二日金谷御殿に入るまでの自筆の道の記である。

シンリュウウジ 眞隆寺 石川郡針道に在つて、眞宗東派に屬する。

シンリュウウジ 眞龍寺 鳳至郡比良に在つて、眞宗西派に屬する。

シンリヨウ 津梁 金澤野田寺町松月寺の住持である。室鳩巢と方外の交をなし、贈酬の詩が多かつた。

シンリンジ 神林寺 鳳至郡輪島に在つて、臨濟宗に屬したが、今は無い。

シンレンイン 心蓮院 紀伊侯徳川重倫の女。前田齊敬と婚約した備姫の法名。

シンレンジャ 心蓮社 (一)沿革—金澤高道新町に在つて、金池山と號し、淨土宗に屬する。慶長十七年京都清淨華院の露月休譽之を楡屋町に創建し、寛永十四年命ぜられて今の寺地を賜はつた。↓キユウヨ 休譽。

(二)國寶—當寺に阿彌陀三尊來迎圖がある。絹本着色で、古來眼明如來と稱して居り、圖様は藤原・鎌倉兩期を通じて多く作られた三尊式である。併し普通には中尊阿彌陀が蓮臺上に來迎の印相を示し、觀音は金色の蓮臺を奉持して右に居り、勢至は合掌して左に侍する様式のものであるが、この來迎圖の如く、中尊阿彌陀の座像であるのは古い形式である。三尊の姿勢は孰れも頗る優美で、顔面は温麗を極め、四肢の位置宜しきを得、腕・腋・指端に至るまでの婉曲の妙を盡くした描線、天衣綬帶の巧みな取扱ひ方、及び各所に施された裝飾文様、銀色の雲に至るまで、悉く藤原時代の特色を窺ふことが出来る。大正十四年四月國寶に指定せられた。

シンレンジャマ 心蓮社前 金澤の舊町名。元祿九年の地子町肝煎裁許に心蓮社前とある。しかし天和元年の心蓮社籍銘には山上寺町とし、正徳・享保頃の三箇屋版六用集には、心蓮社月心寺・光覺寺等を皆山上町に屬せしめてゐる。明治四年四月戸籍編成の時から高道新町に屬せしめた。

# ス

道中名所記に『須天。此村のはづれより望む所、白山の正面なりといふ。此山の左にあるは三方嶽なり。右に見ゆるは大日山なり。』と記する。

スアマクマノジンジャ 須天熊野神社 ↓スハクマノジンジャ 須天熊野神社。  
スイザツロク 隨意雜錄 一冊。加賀藩のこと、將軍・大名・諸士その他のこと、凡べて百一條を記す。加賀藩士の著であらう。  
スイウンアン 瑞雲庵 陸涼軒日録寛正三年十二月十九日の條に、『大上様御領加賀國平澤瑞雲庵盜賊之事伺之、命飯尾左衛門大夫可致札明之由被仰出也。蓋富樫次郎被管之事也。』とある。平澤は今石川郡富樫庄に大平澤小平澤があるが、かうした寺は存せぬ。

スイウンイン 瑞雲院 加賀藩祖前田利家の女備姫の法號。詳しくは瑞雲院梅眞貞芳大姉。  
スイウンジ 翠雲寺 天台宗に屬し、寒松山と號する。もと金澤野田寺町に在つて、天正十五年空傳の開基であつたが、明治八年珠洲郡三崎高勝寺の遺址に轉じた。當寺には高勝寺に屬してゐた木造彌勒菩薩像一軀体高一米四六釐を藏し、平安朝の作と認められるが、大破して居る。

スイウンジ 瑞雲寺 金澤下百々女木町に在つて龍峰山と號し、曹洞宗に屬する。寛正六年州山之を越前府中に創め、天正十八年三代開室の金澤に來た時、寺西宗興請うて寺地を得、木・新保に建立し、前田利常の時命により大乗寺坂の上に移つた。然るに明治十九年その地陸軍の用地となつたから、更に寶圓寺境内の今の地に轉じた。塔頭長谷院は境内

に在つて、元和七年開室の建立であつたが、今は獨立の寺院となつてゐる。  
スイウンジ 瑞雲寺 鳳至郡門前なる總持寺の山内に在つて、曹洞宗に屬する。長祿元年威翁の開基。  
スイオウジ 瑞應寺 陸涼軒日録永享十二年六月十五日の條に、『賀州瑞應寺梵覺首座云々、高麗被遣之註文懸御目。同書寛正四年八月五日の條に、『加賀國瑞應寺梵覺首座云々、公文御判被遊也。』など見える。瑞應寺は今存せぬ。

スイカマツリ 西瓜祭 能美郡小松の菟橋神社に於ける八月廿四日から廿六日に至る祭禮。參詣者多く西瓜を購ふが故に名づける。  
スイガンイン 瑞巖院 大聖寺藩主第二代前田利明の女で、松平紀伊守信府夫人になつた備姫の法號。詳しくは瑞巖院圓覺清月涼薫大姉。  
スイガンゲンチヨウ 瑞巖源瑠 金澤曹洞宗寶圓寺三十五代の住持。關秀香外の後を受けて伊豫松山龍穆寺より進山し、退院の後明治十一年十一月八日近江善永寺に寂した。

スイガンシヨウリン 瑞巖詔麟 曹洞宗の僧。能登の人。蒙山紹瑠・峨山紹頌・明峰素哲に師事し、遂に無涯智洪に參して開悟し、越前の祥園寺に赴き、無端祖環の侍司となつた。後祥園寺を司り、能登の畠山滿家が宗圓寺を創めた時、招かれてその開山となり、次いで永光寺に住し、應永中總持寺に主となつた。門下に青山性秀・雲澤詔興・日東詔春・玉麟詔天等を出した。

スイキヨウロク 隨隱錄 一冊。池田玄章著。文政十年閏六月前田齊泰の女備姫が、保